

# ただの葉っぱと侮るなかれ - 「バジル」

## 管理栄養士 寺井春奈

皆さまお気に入りの香りはありますか?私はレモングラスの香りが好きです

焦げるような日差しが続き、お疲れの方も多いのではな いでしょうか。

日本の夏が40℃近い(なんなら超える)気温になるこ とにもだんだん驚かなくなってきましたね。

命にかかわることもあるので、手間ではありますが熱中 症対策をしっかりしていきましょう。

今回は爽やかな香りが特徴の「バジル」のお話です。

バジルと言ったらイタリアを想像される方が多いかもし れませんが、発祥起源はインドです。

聖なる力を秘める神聖な植物として崇められ、ヒンドゥ ー教の神々にささげられてきました。

名前の由来も、ギリシャ語で「王」を意味する「バジレ ウス」からきていると言われています。

バジルは150種類ほど存在しますが、市場によく出回る のはスイートバジルです。

バジルはあの独特な香りが特徴的ですが、あれは「リナ ロール」や「シネオール」「オイゲノール」などの成分 が関与しています。

バジルの香りにはリラックス効果があると言われ、成分 的には胃腸を休める効果、殺菌効果などがあります。 加熱により香りが飛びやすいこと、包丁などの金属と

触れると酸化して変色することがあるので、食べる直前 にちぎることをお勧めします。

以下、バジルに豊富に含まれる栄養素を一部ご紹介しま

#### 1. β-カロテン

バジルで他の野菜類よりも優れている点は、β-カロテ ンが豊富なところです。

β-カロテンはビタミンAになる成分のひとつであり、 ビタミンAは皮膚や粘膜の状態を維持するなどの働きが あります。抗酸化作用もあります。

#### 2. ビタミンE

ビタミンAやCよりも抗酸化作用が強いのがビタミンE です。

脂溶性(脂に溶ける性質)を持つビタミンはA.D.E.Kの 4種類(余談ですが、管理栄養士の国家試験勉強の際、 4種類 "DAKE(だけ)" と覚えた記憶があります) です が、食べ物に含まれる脂質とともに腸管から吸収されま す。

活性酸素の働きを抑制し、体内の細胞が酸化(老化)す るのを防ぐ働きがあります。

# - バジルの香りがクセになる - **ガパオライス**

### 【材料(1人分)】

・バジル

お好みで

・玉ねぎ 1/2個

・ピーマンorパプリカ 中1個

・鶏ミンチ 150g (豚でも可)

サラダ油

大さじ1/2

大さじ1/2 ★しょうゆ 小さじ1 ★酒

★ナンプラー(なければ醤油を小さじ2に増やす) 小さじ1

★みりん 大さじ1/2 ★オイスターソース 小さじ1

黒こしょう お好みで



### 【作り方】

- ① バジル →さっと洗って茎を取る。(香りを出すため、葉をちぎるのは最後に) ピーマン →へタを切り落とし、中のタネを取り除いて5mm程度の角切り 玉ねぎ→皮をむいて粗みじん切り
- ② ★の調味料を混ぜ合わせておく。
- ③ フライパンにサラダ油を入れて、弱~中火で玉ねぎを炒める。 玉ねぎに油がまわったら、鶏ミンチ、パプリカorピーマンを入れて中火で炒める。 ある程度火が通ったら★の調味料を入れて汁気がなくなるまで炒める。
- ④最後にちぎったバジルを散らして軽く混ぜ、ご飯と一緒に器に盛り付けて完成。